

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

2000. 1. 31. No. 5081

資本主義の危機と21世紀の展望

第8回全支部活動者研修会



1月23～24日全支部活動者研修会

第八回全支部活動者研修会が1月23、24日、石和温泉・ホテル慶山において開催された。研修会は「資本主義の危機と21世紀の展望」(要旨本号)、「産業報国会への転落を深める連合・JR総連をテーマに講演を受け、充実した討議が行われた。

日本の経済恐慌と大失業その実態!

現在の大失業の現状は、日産の五工場閉鎖などに端的に顕れている通り、今までの失業・雇用のあり方を越えている。日本興業銀行・第一勧銀・富士銀行の九月統合では、いったん全行員を解雇し再雇用という方式を取り、大手のリストラでは、社員残酷虐待物語などと雑誌に紹介されているような、「独房」「蟻人形館」といったような、自分から辞めると言わせることがまかり通っている。そしてこのやり方は、十年前に清算事業団でやったやり方であり、国鉄分割・民営化型の首切り・リストラが全産業・全労働者に襲いかかっているということだ。通産省に代表されるように、戦後のあり方として、雇用維持・工場維持だったものが、産業再生法によって、国のスタンスが一変していく。法律の名の下に、国家が設備廃棄・首切りを税制面で支援していく。これは商法改悪とあいまって、分割の名を借りて人員を削減する。過剰人員や不良債権を分割会社に移してそれをつぶす。自分だけ身軽になるというもので、それを国家が支援するというものです。

日本の経済状況は、九七年年秋の山一証券の倒産などから金融恐慌・経済恐慌に入り、九八年春の長銀・日債銀の経営危機を経て、この一昨年には崩壊の危機に立った。現在日本の経済状況は表面上元氣に見えるが、実際はひどい状態にある。これを支えているものは、金融機関救済のための公的資金七〇兆円の注入と公共投資の増額という大量の金の投資であって、何の根本問題にも手をつけないまま輸血金融機関の救済を行っている。これによって日本は、財政改革政策から赤字放漫財政に急転換を行った。何よりも支出よりも借金の方が多いという予算をみれば明らかであり、破滅に向かっている。唯一の解決の道は、日銀による国債の引き受け、日銀券を大量に印刷して国債を買い取らせるといって、一九三〇年代に一回だけやっている、戦時財政に行き着くしかない。今年の「労働研報告」では、「人間の顔をした市場経済」と述べているが、このようなことは資本主義ではありえないことだ。端的な例で言えば、自動車産業の設備過剰は、世界では二〇〇〇万台とアメリカの市場よりも大きい。日本だけでも三〇〇万台が設備過剰であり、銀行の問題債権は依然として一〇〇兆円となっている。よって合併や統合では過剰な資本は解決できず、本当に過剰設備を廃棄するならば、今以上の恐慌になる。三行統合などの合併は、まとめて大きくしただけで、大きく

ぎてつづけないとなり、不良債権が大きくなるだけだ。施策は今をどうするかだけで、残っている手は経済的にはない。この二年間の大量輸血でかろうじて生きているという状態だ。

アメリカのバブル経済は崩壊寸前!

一方で、アメリカ経済は歴史上最大の株バブルであるが、G7(先進七カ国蔵相会議)でもアメリカのバブルに警鐘を鳴らすということがおきているように、アメリカの本格的バブル崩壊が迫っている。

インターネット取引に代表される数秒・数分での株売買、IT情報技術革命で米経済は生まれ変わったとする株に対する楽観主義がはびこっているが、株などを担保に借金をして所得以上に消費する、つまり収入よりも消費の方が多いというバブル状態を示している。この市場を支えているのは低金利の日・欧の資金がアメリカの金融市場に流入しているからに他ならない。

アメリカ経済も九八年のロシア経済危機の際には一旦は崩壊しかけたが、公的資金導入によって再びバブル膨張を引き起こしている。

二九年恐慌はアメリカの過剰設備が株暴落を招いたが、今回は日本一国だけで二九年恐慌以上の過剰設備をかかえ、それに不良債権がダブっている。そこにアメリカの株価暴落が来たら労働運動の色が変わってしまうだろう。

大恐慌と戦争の時代

世界経済の枠組みである最後の牙城アメリカのバブル崩壊・ドル体制の瓦解によって、恐慌と経済のブロック化は進む。グローバリズムとは世界中で投機をやるということだ。

ヨーロッパでは単一通貨「ユーロ」を導入するなど、すでにドル支配の切り崩しを狙っている。これはマネーを別の世界にするということであり、EUにはトルコが加盟している。

ユーゴスラビアに対するアメリカ・NATOの戦争は、スロベニア・クロアチア・ボスニアなどがドイツマルク圏となっていくように、ドイツを叩くのが狙いであった。このような対立構造・分断支配は、経済危機が噴出して朝鮮、とりわけ中国の体制崩壊がおこったときにはユーゴと同じようになる。

過剰設備・不況・恐慌・戦争へと続く道は、今後アメリカのバブルが弾けたときに、見るのも初めての「大恐慌」となってしまう。起こされるだろう。

労働者が勝利する時代展望!

労働者の時代を創りだすためには、「資本主義にNO」と言い切ることで、世界の人達が豊かになる生産にすることだ。経済システムを把握すれば誰にでも管理できる。

労働者が運営する条件が成熟している。二一世紀初頭こそ勝負の時代が到来する。